

月刊きょうと教育通信

vol. 15 平成16年2月号 発行：京都市教育委員会企画課（222-3768）

京都市教育委員会のHPは<http://www.edu.city.kyoto.jp/>でご覧いただけます。広報資料は毎日更新しています。

不審者侵入防止対策等を充実 学校安全一斉点検と安全管理機器の整備

昨年12月、宇治市小学校での侵入者による児童への傷害事件を契機に京都市では、学校安全対策のさらなる充実を図りました。

1月中旬には、全ての幼稚園・小学校等を指導主事等が一斉に訪問。事前に報告のあった「安全管理状況（防犯対策）チェックリスト」の点検結果を確認し、安全指導を行いました。

また、幼稚園・小学校各校の希望する安全管理機器の設置や学校の修繕を行う「学校安全管理機器等整備事業」（当初予算2,000万円）の内容を宇治市小学校事件を受けて大幅に充実。新たに中学校・高校・養護学校も対象とし、追加要望も反映することにより、総経費を約1億円に増額しました。

これに基づき、校門等への防犯カメラや出入者感知センサーの増設、校門や教室等へのインターホンの設



朱雀第一小学校に
設置されたインターホン

置、教職員や教室への防犯ブザー（携帯アラーム）の配備、校門の改修などを2月6日以降順次実施しています。

さらに、各学校が家庭・地域と連携して推進している先進的な取組を集約し、2月中に「子どもの安全確保・学校防犯実践事例集」（仮称）を発行。学校とPTA、地域諸団体の連携による実践に反映できるよう学校・幼稚園に配付するなど、学校の安全対策を総合的に推進しています。

ご意見・お問合せ＝体育健康教育室（213-5472）

中学生の健やかな成長を支援 『給食制度』全中学校導入完了

1月8日、4校で新たに学校給食を開始し、これにより、全中学校への導入を完了しました。

弁当持参か学校給食かを選択する本市の中学校給食は、成長期にある中学生に望ましい食習慣を身につけさせ、手作り弁当の教育的効果を生かし、弁当を持参できない生徒に栄養のバランスを配慮した食事の提供を目的に、平成13年1月、6校で試行的に開始。その成果を基に、13～15年度の3ヶ年での全校展開を計画的に実施してきました。

今後は、学校から「食」に関する情報の発信強化など、学校と家庭の連携を密にし、指導の充実を図るとともに、献立内容の充実など、中学校給食の発展に向けて取組を進めます。

ご意見・お問合せ＝体育健康教育室（TEL 213-5475）



<2月の主なできごと>

- 2月15日 「大文字駅伝」大会（最下位チームも昨年より3分の記録アップで全チーム大活躍）
- 21日 青少年科学センター新展示品「ノーベル賞」一般公開開始
- 22日 不登校フォーラム
- 24日 第8回人づくり連続公開講座（18:30～、ウィングス京都、セルフサポートセンター東樹ホーム長・龍尾和幸氏の講演、当日自由参加）
市立高校生徒資格取得者等表彰式
- 28日 おひなまつりコンサート（14:30～、こどもみらい館、当日自由参加）

注 目 不登校生徒学習支援特区中学校 校名募集

不登校生徒の進路展望を見出す学び場として、10月開校の新しい中学校の校名を募集。〔募集期間：3月15日まで、はがき又はFAX（257-3350）〕

お問合せ＝不登校特区中学校開設準備室（213-2222）

理科を考える市民会議が中間報告提出 パブリックコメント募集中

榎本頼兼市長の諮問機関として平成 14 年 8 月に発足した「21 世紀の『理科』を考える京都市民会議」(座長: 日高敏隆総合地球環境学研究所長・青少年科学センター所長)では、昨今の「理科離れ」「理科嫌い」の風潮を払拭し、「理科好き」「学び好き」な子どもが育つよう、学識経験者・産業界・公募市民委員・PTA・学校関係者らの委員が 10 回にわたる熱心な協議を重ねてこられました。

市民会議では 2 月 3 日、京都の恵まれた自然や人的・物的資産を有効に活用し、子どもの生きる力を大切にしたい京都ならではの「子どもが自ら育つ」風土づくりを目指す「学びの京都理念と京都モデル」の創出を提唱する中間報告を京都市に提出されました。

< 中間報告の主な内容 >

大人が子どもの発する疑問に適切に対応し、「自ら育とうとする子ども」にとって大切な人になる

子どもだけでなく、市民みんなが恵まれた京都の自然



日高座長が門川教育長に
中間報告を提出

や人的・物的環境を有効に活用できるネットワークづくり

「知の宝庫」である京都の博物館、大学、企業などの研究機関相互の連携を密にした「理科大好き」な子どもが育つ風土づくり

現在、中間報告を各区役所・支所、図書館などで配布し、市民からの意見募集(3 月 15 日まで)を行っており、最終的な報告書を 4 月にまとめられる予定です。

なお、中間報告については、青少年科学センターのホームページにも掲載しています。

ご意見・お問合せ = 青少年科学センター(642-1601, HP アドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/science/>)

平成 17 年の合併に向け京北町視察



京北第一小学校の
ランチルーム

京都市では、昨年 10 月 28 日に「京都市・京北町合併協議会」を設置し、平成 17 年 3 月の合併に向け具体的な協議を進めており、12 月 25 日に開かれた第 2 回目の協議会では、京北町を右京区に編入することを決定しました。

そのような状況の中、教育委員会では、京北町の状況を把握するため、1 月 26 日から 28 日にかけて教育関連施設の現地視察を実施しました。

視察は、京北町教育委員会のご協力を得て、学校、廃校跡地の施設や生涯学習関連施設など、合併に向け特に検討・調整が必要な施設を中心に行いました。

今後も、京北町との情報交換を積極的に行い、京都市民、京北町民の皆さんに合併して良かったと思っていただけよう、準備を進めていきます。

ご意見・お問合せ = 調査課(222-3772)

なんばーわん

小中一貫教育特区を申請(政令市初)

本市では、特色ある学校づくりの一環として、行事の交流や教員相互の交流による教科指導の充実など、小中連携を推進してきました。これらの取組のさらなる充実を目指して、教育課程の弾力化や新教科創設など、小・中学校間の枠を越えた接続を図るため、1 月 26 日、「小中一貫教育特区」計画を内閣総理大臣に申請しました。

< 特区計画の概要 >

陶化中・陶化小・東和小・山王小...小 6 に「英語科」を新設。

大宅中・大宅小...小 5 ~ 中 1 の 3 年間で、計算力の充実に向け、算数科・数学科の独自のカリキュラムを実施。また、小 5 ~ 小 6 で「英語科」、中 1 で「英語表現科」を新設。

2 つの中学校区単位のグループで、小・中学校 9 年間にわたる「協働体制」を構築し、計画的・系統的な指導を行い、確かな学力と豊かな心・健康な体を育成する。

上記の学校において、先進的な取組としての成果を全市に伝えていきます。

また、本市では、すでに教育分野の特区として「京(みやこ)の人づくり推進特区」と「不登校生徒学習支援特区」の認定を受けています。

ご意見・お問合せ = 教育計画課(222-3815)